

## 第 15 回 aaca 京都建物視察会に参加して

建築家  
A・Aプランニング代表  
日本建築美術工芸協会会員 青木恵美子

11月2、3日と京都建物視察旅行に参加いたしました。盛り沢山の見学ツアーで想像以上のハードスケジュール。コロナで密になるバス移動は避けて電車と徒歩の視察ということで、毎日15000歩という充実のツアーでした！

2日朝6時半の品川発の新幹線で8時半に京都に到着。各自地下鉄に乗りし京都市京セラ美術館前に参加者40名が9時半集合しました。(集合写真1)美術館開館を待ち10時に入館し、設計者であり館長の建築家青木淳氏からビデオ付きのお話を伺いました。青木氏によると以前の美術館は入り口が狭く大展示会の時は雨の中、傘をさして並んで入館しなくてはならない状態であった。それを解消するために入口を拡充し広場「京セラスクエア」として、美術館が周囲とつながる憩いの場所を確保した。屋外コンサートやイベント、パフォーマンスなど人が集う場所として、リニューアルのシンボリック場所にされたそうです。帝冠様式の重厚な歴史的建築物にガラスのファサードを足元に纏い、歴史を重層する空間が人々が溜まれる場所となり、観賞後寛いだり語り合ったりできる。美術館はただ鑑賞するだけでなく、そこでの時間を提供する場所だと思います。建築家青木氏が創った人々の憩いの場所であることを実感しました。(写真2)

名残惜しい京都市京セラ美術館を後にして、地下鉄と路面電車の嵐山電鉄(嵐電)を乗り継いで渡月橋のある嵐山

へ。嵐山のレストランでランチですが、京都らしい湯豆腐御善で京都をいただきました。昼食後は、近くの福田美術館とMUNIホテル。こちらは建築家安田幸一氏設計でまたまた安田氏自らのご案内です。福田美術館とMUNIホテルは道を介して向かい合いにあります。設計がほとんど終了しオーナーにプレゼンしたところ、美術館とホテルの場所を入れ替えようと言われ、設計し直したという設計の苦労談を。またこの美術館とホテルの前面道路は低い場所であり、今時の大雨浸水の危険からいろんな工夫がされているようですが、美術館の1.5M塀はその浸水を防ぐために設けられたようで、建物とマッチし足元を装い安心感を与えているような気がしました。ホテルの中には白の庭と黒の庭があり白い石と黒い石をカットして京都らしい石の庭を表現しています。美術館は琳派から与謝蕪村、若冲という絵師の所蔵が主なのですが、このような日本画は展示照度が大切でライティング照明計画に苦労されたそうです。また安田氏は特別に中庭の水盤に案内してくださり、浮いた石の秘密も説明くださいました。こじんまりとしたホテルと美術館ですが、場にふさわしい建物でした。(写真3)

1日目の最後は、京都高瀬川沿いの立誠小学校をリノベーションした立誠ガーデンヒューリック。(写真4) 京都には明治維新後「番組」という町民達の住民自治組織があり、そこに創設されたのが番組小学校で64あったそうです。そ



集合写真1



写真3 福田美術館中庭



写真2 京セラ美術館外観



写真3 福田美術館中庭



写真4 立誠ガーデンヒューリック

の中の1つの立誠小学校は1928年にロマネスク様式で建設されたが、住民の寄付もかなりあったようです。そのため今回のホテルも一部既存を残しつつ新しいホテル棟を建設したが、事業主ヒューリックと地元の連合会が共同合意して可能になったようです。京都を守る地元の意識の高さには驚くばかりですが、だからこそ良い街が継承されるのだと思いました。さらに素晴らしいのが、この建物に囲まれる中庭。若者や子供連れが楽しそうに芝生に座り込んで夕暮れ時を楽しんでいました。市民の憩いの場です。折角来たので、ホテルの最上階のバーに上がりビールを1杯、京都市が一望できるバーで黄昏時を楽しみました。

2日目は3つのグループに分かれて地図片手の街歩きでした。まず、内藤廣氏設計の京都鳩居堂。残念ながら開店前中で中を拝見することはできませんでしたが、ガラス越しに中を覗きこみました（怪しい集団です）。外観はしっかりと京都の街に馴染んでいました。次は新風館へ。京都の中心地烏丸御池にあるシネマや店舗などの複合施設のリニューアルですが、木縦格子の外観が京都の街に溶け込み伝統と革新を継承しているように思えました。（写真5）その後、ホテルヒラマツを見つけ、怪しい集団が写真をパチパチとっていると仲居さんが出てきて、入り口だけならいいですよ〜と中に入れてくださりロビーに。京町屋をリノベした古い建物の天井裏の梁には上棟時の弊串が見られ建物の歴史

を物語っていました。（写真6）

それから延々と歩いて秦家へ。女将の秦さんの流れるような丁寧な解説をいただきました。表屋形式という間口狭く奥行きのある昔ながらの京都の町屋スタイル。土間と店舗、奥には中庭のあるプライベート空間が広がり、今なお住みながら家を保存している秦家に感動！さすがの京都市有形文化財の家でした。（写真7）

時間がだんだんなくなってきたので大急ぎで最終目的地の藤森照信氏設計の徳正寺矩庵へ。阪神淡路震災で壊れた茶室を2018年に藤森氏がツリーハウス形式の茶室に。女将さんが煎茶を入れてくださりながらツリーハウス矩庵のエピソードを沢山伺いました。（写真8）

2日目午前の街歩きは終了し3グループが集合しランチ。美味しいしゃぶしゃぶとお酒で足の疲れを解し、午後最後は京都国立博物館。新しい平成館でなく、古い博物館見学です。今は閉鎖中ですが解体中の様子などをじっくりと説明をいただきながら貴重な見学でした。大急ぎの視察旅行でしかもハードスケジュールでしたが、内容濃く再度ゆっくりと見に来たい！と思いながら新幹線で帰路につきました。

企画してくださった方、皆さまお世話になりありがとうございました。



写真5 新風館



写真6 ヒラマツ



写真7 秦家



写真8 矩庵